

事務事業名	≪H23新規≫ 消防本部消防活動特殊機器整備事業(法令)		所属部局	消防本部		単位番号	2011- 13081					
	☐ 実施計画事業		所属課室	管理課		課長名	中込久男					
			所属担当	管理担当		担当者名	清水賀津雄					
基本政策	基本計画体系	I	情報と連携の都市づくり		予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目
政 策		06	安全な環境づくり			01	一般	09	01	01	030	26
施策		08	防災体制の充実			事業区分 ☒ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設等維持管理事業 ☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業 ☐ 市の制度による義務的事業 ☐ その他の事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金						
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 23 年度)		☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		法令根拠	・消防法 ・救助隊の編成、装備及び配置の基準を定める省令						
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 法令(通達)等の改正により消防救助活動資機材の整備及び購入等を行う事業である。					事業費の主な内訳 (24年度 決算見込)						
						項目(細節)	金額(千円)		項目(細節)	金額(千円)		
						備品購入費	616					
									計	616		

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動		
24年度活動実績	消防署化学防護服整備計画により、既存配備の陽圧式化学防護服1着を更新した。	
25年度活動予定	消防署化学防護服整備計画により、既存配備の陽圧式化学防護服1着を更新する。	
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		
・消防職員数 ・資機材 ・人口		
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていのか、どのように変えるのか)		
隊員の安全を確保し、消防活動に支障が起きないこと。		
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)		
救助活動が円滑に実施できる(人命救助が無事実施できること)		

⇒		⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない
	名称	単位
⇒	ア 購入資機材数	台
	イ	
	ウ	
⇒		⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない
	名称	単位
⇒	ア 消防職員数	人
	イ 資機材数	台
	ウ	
⇒		⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)数字は記入しない
	名称	単位
⇒	ア 救助出動回数	回
	イ	
	ウ	
⇒		⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない
	名称	単位
⇒	ア 救助救出人員	人
	イ	

(2) 事業費・指標の推移				単位	23年度 (決算・実績)	24年度 (決算見込・実績)	25年度 (予算・目標)	26年度 (次年度計画・目標)	27年度 (計画・目標)	28年度 (計画・目標)	最終 (トータルコスト・目標)	年度
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円								
			県支出金	千円								
			地方債	千円								
			その他	千円								
			一般財源	千円	3,077	651	651	651	651	651		
	事業費計 (A)		千円	3,077	651	651	651	651	651	0		
	人件費	正規職員従事人数		人	24							
		延べ業務時間		時間	224							
		人件費計 (B)		千円	887	0	0	0	0	0	0	
	(A)+(B)			千円	3,964	651	651	651	651	651	0	
活動指標		アイウ	台	5.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0			
対象指標		アイウ	人 台	27.0 10.0	27.0 10.0	27.0 10.0	27.0 10.0	27.0 10.0	27.0 10.0			
成果指標		アイウ	回	16.0	31.0							
上位成果指標		アイ	人	10.0	16.0							

(3)この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	平成7年度に発生したサリン事件以降、消防活動隊員の安全確保を目的に整備された陽圧式化学防護服の購入事業
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	消防業務として、市民の生命・身体・財産の保護を目的としている以上、高度な資機材が必要であり、資機材の老朽に伴う更新が必要となっている。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	市民や議会から「高価なものであっても装備は十分にすべきである」といった意見がある。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？	☐ 取り組みしている ⇒【内容↓】 ☒ 取り組みしていない⇒【理由↓】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	事業としてスタートしたばかりであり、計画に沿って整備して行くが、今後の取り組み方法を検討していく。
③ H 24年度に実施した改革改善の内容	なし

事務事業名	《H23新規》消防本部消防活動特殊機器整備事業(法令)	所属部	消防本部	所属課	管理課
-------	-----------------------------	-----	------	-----	-----

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 特殊な災害現場において、職員の安全確保なくして円滑な救出活動が実施できないため。
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPO、市民協働に移行することは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 市が組織する消防において災害現場活動を円滑に実施するための事業であるため。 事務事業の全部もしくは一部を外部に移行することが可能である。 ☐ 民間・NPO ☐ 市民協働
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 災害現場で使用する特殊機器は常に使用できるよう維持管理する必要がある。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 今後さらに事務事業の成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ かなり向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ ある程度向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由↓】 特殊機器の整備計画を作成し、単年度の事業費負担を軽減できる。
	⑤ 類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☒ 影響なし ☐ 休止・廃止ができる ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 特殊な災害現場において、職員の安全を確保する機器がない場合救出活動が実施できなくなる。 特殊な災害現場において、職員の安全を確保する機器がない場合救出活動が実施できなくなる。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☒ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 削減余地がない ⇒【理由↓】 平成23年度は複数の機器の整備であったが、次年度以降計画的に整備することで、単年度の負担軽減に繋がる。
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 他の事務との併用による契約等に限定した事務であるため、これ以上の人件費削減は困難。
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 災害現場における活動用資機材の整備事業であり、市民の安全を守るために必要な事業であるため。

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	高価な資機材の整備については、計画的に実施し、単年度に要する事業費の削減に繋げたい。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可		(3) 改革・改善による方向性																						
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☐</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table>				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☐		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☐	☐																				
	維持	☐	☐																					
	低下	☐																						
(2) 改革改善案について		※ 廃止・休止の場合は記入不要																						
①																								
②																								
③																								
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策		(5) 事務事業優先度評価結果																						
①		成果優先度評価結果	①																					
②																								
③		コスト削減優先度評価結果	⑥																					